

近畿大学次世代基盤技術研究所

～出会いと連携の研究拠点～

独自性ある研究の推進と、地域密着型で技術課題の解決に貢献

1. 研究所の概要

これからの時代は、民間企業や関係省庁など、外部の協力も得て「社会に役立つ研究」を進めることが必要です。近畿大学では、1996年に設立した「工業技術研究所」を、さらに研究分野を拡大・深化させるため、2010年に「次世代基盤技術研究所」として新設しました。本研究所の設置目的は、次世代基盤技術に関する総合的な調査及び研究を行い、持続可能な社会を構築できる技術開発と地域社会の技術の発展に寄与することとしております。

研究棟は、2009年度（平成21年度）に採択された文部科学省「戦略的研究基盤形成支援事業」による研究用施設として2010年3月に整備し、産学官連携を推進する社会連携センター、自動車技術研究センター、建築環境研究センター、バイオ工学研究センター、サービス工学研究センターを設置しました。

■ 研究所の組織

次世代基盤技術研究所

Research Institute of Fundamental
Technology for Next Generation

- ・人員 26名
(うち、専任教員2名、兼任教員24名)
- ・担当事務員 2名

(2010年4月現在)

社会連携センター

自動車技術研究センター

建築環境研究センター

バイオ工学研究センター

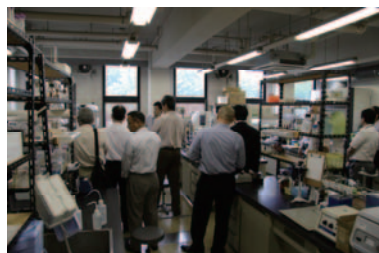
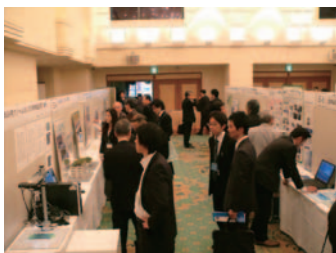
サービス工学研究センター



次世代基盤技術研究所・研究棟（工学部のある広島キャンパス（東広島市）内に設置（2010年3月竣工））

研究所では、様々な活動を通じて、産官学連携を推進しています。

現在、主な事業として、研究公開フォーラム、社会人リカレント講座、研究室訪問の定期開催、特許セミナー、広島銀行・もみじ銀行の寄附講座等を行っています。



2. 研究運営体制・組織

当研究所は、近畿大学の附置研究所です。本部の近畿大学リエゾンセンターとの連携を通じて、近畿大学全体の研究資産を提供できます。

現在、当研究所は、工学部の教員 26 名で構成されており、加えて事務職員 3 名が業務に当たっています。また、研究所事業を運営するため、社会連携センターと 4 つの研究センターを設置しています。

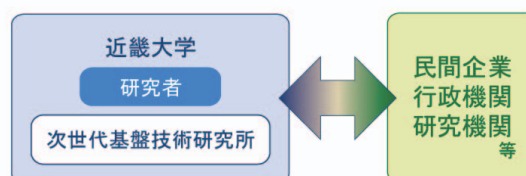


3. 研究センターの紹介

3.1. 社会連携センター（産学官連携の窓口）

2008 年 4 月に社会連携センターを設置しています。ここでは、産学官連携のワンストップ窓口として共同研究や技術相談の受付を行うとともに、工学部の研究機能の強化支援などを行っています。また、2009 年度には、地元金融機関との包括連携協定を締結し、学部生を対象にキャリア教育としての寄附講座を実施しています。地域密着型の様々な出会いと連携により、技術課題の解決等に貢献するとともに、今まで気づかなかった独自性・新規性のある研究につながっていくなど、重層的な関係構築を目指しています。

- 研究費の受け入れ
- 技術相談
- 工学部研究公開フォーラム
- 研究室訪問
- 工学部産学官連携推進協力会



産学官連携推進協力会は 2002 年 10 月に設立以来、行政機関等のご支援のもと、地域産業界との連携強化を目的として、共同研究や受託研究のほか、リエゾン活動として、毎年、研究公開フォーラムへの出展・技術発表会・特別講演・産学官交流会・リカレント講座の開催、ニュースレターの発行などの活動を行っています。（2010 年 4 月現在 会員数 124）

3.2. 建築環境研究センター（環境に配慮した持続可能な住宅を研究）

大地に根を張り、自然と共生しながら築かれてきた建築物。しかし最近ではその建築こそが自然を破壊し、地球温暖化に大きな影響を及ぼしていると言われていました。建築環境研究センターでは、廃棄物削減・資源の再利用化を前提に省エネ・快適性・耐震・安全性、改修・耐久性をテーマにして、「持続可能な住宅」について総合的に研究しています。具体的には経済持続可能性、環境持続可能性、そして社会持続可能性を考えなが

